



TE Connectivity

# 2025 インダストリアル・テクノロジー・インデックス

## 日本版概要

### 本調査について

TE Connectivity 2025 インダストリアル・テクノロジー・インデックスは、世界のテクノロジー業界を牽引するイノベーションの現状を把握するために、第三者機関に委託して実施されたTE Connectivityの独自調査報告書です。本調査は、米国、中国、ドイツ、インド、日本の5カ国において、各業界のエンジニアとエグゼクティブ、1000名を対象にオンラインで実施しました。重要なイノベーションの課題に企業がどのように取り組んでいるかについての洞察と知見を提供することを目的としています。



グローバルレポート全文を見る

© 2025 TE Connectivity. All rights reserved.  
 TE Connectivity, TE, およびTE Connectivity (ロゴ) は、TE Connectivity plcファミリーの企業が所有またはライセンスしている商標です。  
 Published 03-2025

## 日本のイノベーションの現状

日本のエンジニアとエグゼクティブは、自社のイノベーションを実現する力に強い自信を示しており、目標やイノベーションへの取り組みに対する疑念の声は他国に比べて極めて低いと言えます。当然のことながらAI導入を自社の際立った強みと捉え、回答者の75%がAI技術を既に活用し、そのうちの82%が1年以上利用していると回答しています。また、日本の回答者は、持続可能性を最優先事項と捉えており、経済的制約よりも市場競争の圧力が持続可能性の目標達成に向けた最大の課題であるとしています。新たなテクノロジーの創出やサプライチェーンの改善、持続可能性の推進など、目標達成のためにAIの活用は、企業にとって絶好の機会になり得ると回答しています。

### 将来への自信



日本の回答者の**80%**は、自社のイノベーションの目標が現実的だと考えており、グローバル平均の**69%**を上回っています。

80%

69%



日本は回答者の**81%**が将来に対して前向き志向で、グローバル平均のスコア(**69%**)を上回っています。

81%

69%

### AIイノベーションの時代



日本の回答者の**31%**は自社のAI導入がすでに広範囲に及んでいると回答しており、グローバル平均の**22%**を上回っています。

31%

22%



AIをすでに3年以上使用していると回答した日本の回答者は**51%**で、グローバル平均の**38%**を上回っています。

51%

38%



日本の回答者の**97%**は、持続可能性が自社にとって重要事項であると認識しており、グローバル平均の**90%**を上回っています。

97%

90%



グローバルでは**68%**が、持続可能に向けたイノベーションを推進する上で、経済的制約を主な課題に挙げているのに対し、日本は**55%**とグローバル平均を下回っています。

55%

68%

日本

グローバル

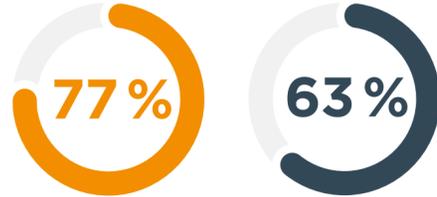
## AI導入の最適化

日本の回答者の大半は、AI導入に対して抵抗感を示しておらず、雇用喪失や文化的な抵抗、職務の不明確さに対する懸念が少ないことが分かります。企業からの強力な支援も受けており、AI研修プログラムなどを通じて、将来の課題に適応するリーダーとしての役割を果たすための環境が整っています。実際、日本はインドに次いで従業員に対するAI研修の導入が進んでおり、トレーニングの機会に対する個人の関心が最も高い市場となっています。

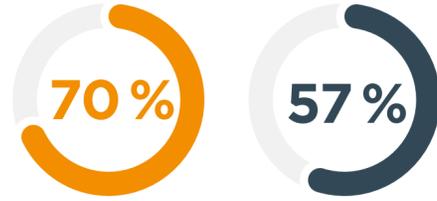
### 脅威のないAI共存



日本の回答者の**77%**は、AIに自分の仕事が奪われる心配はないと回答しました。これはグローバル平均の**63%**を大きく上回っており、日本の労働者がAIの進展を脅威ではなく前向きに受け止めている傾向が示されています。



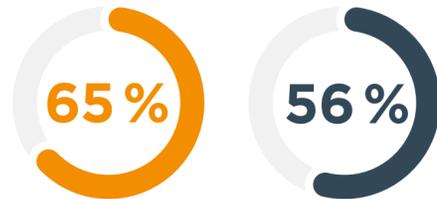
AIは自社の業界にとって脅威ではなくチャンスと捉える日本の回答者は**70%**で、これはグローバル平均の**57%**を上回っています。日本では、AIを活用することで新たな可能性を生み出す意識が比較的高いことが分かります。



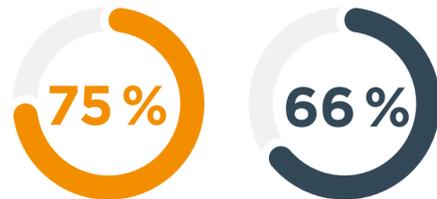
### AI時代に向けてのスキルアップ



日本の回答者の**65%**は、従業員向けのAIトレーニングが提供されていると感じており、グローバル平均の**56%**を上回っています。AIの活用が進む中、日本企業では従業員のスキル向上に向けた取り組みが積極的に行われていることがうかがえます。



日本の回答者の**75%**が、AIのスキルアップが失業や人員削減につながる心配はない、と回答しており、ここでもグローバル平均の**66%**を上回っています。この結果は、日本人がAIとの共存を前向きに捉えていることを示唆しています。



● 日本 ● グローバル

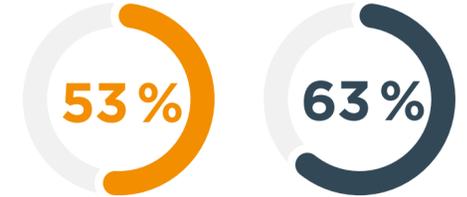
## 持続可能性のイノベーション

持続可能性の目標達成に関して、日本のエンジニアとエグゼクティブは非常に前向きな見方をしています。日本では**98%**が持続可能性の目標と枠組みを有していると回答しています。これは2番目の中国を5ポイント上回っており、世界でトップに立っています。また、日本の回答者は、規制関連に対する業界の準備態勢や、現在の規制枠組みの妥当性についても、高い信頼感を示しています。

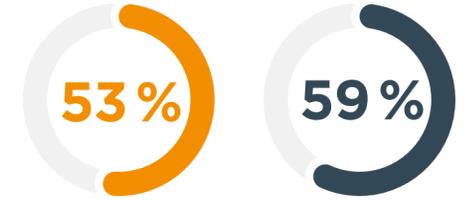
### 異なる課題認識



日本の回答者の**53%**が、持続可能性に関する一貫した業界基準の欠如を、イノベーションの推進や将来のサステナビリティ目標の達成における課題と捉えています。これは、グローバル平均の**63%**と比較すると低いものの、日本市場においてもサステナビリティ基準の整備が求められていることを示しています。



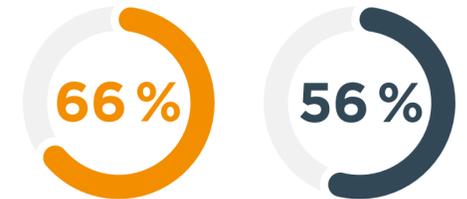
日本の回答者の**53%**は、持続可能性の対策における投資家支援の不足を、目標達成を阻む課題として捉えています。これはグローバル平均の**59%**と比較するとやや低いものの、日本市場においても投資家の関与が重要な要素であることを示しています。



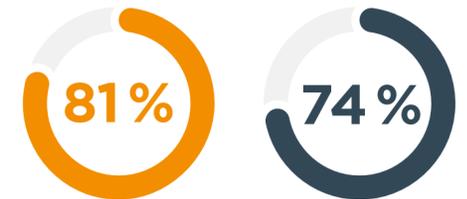
### サステナビリティ基準への対応



サステナビリティ規制の強化に対して業界の準備は整っていると感じる日本の回答者は**66%**で、グローバル平均の**56%**を上回っており、日本の業界が比較的高い準備度を持っていることが示されています。



自社の業界は適切なサステナビリティ規制を導入していると感じる日本の回答者は**81%**で、グローバル平均の**74%**を上回っています。この結果は、日本の業界が規制対応の整備に積極的であることを示唆しています。





TE Connectivity

# 2025 インダストリアル・テクノロジー・インデックス

## エグゼクティブサマリー

### 本調査について

TE Connectivity 2025 インダストリアル・テクノロジー・インデックスは、世界のテクノロジー業界を牽引するイノベーションの現状を把握するために、第三者機関に委託して実施されたTE Connectivityの独自調査報告書です。

本調査は、米国、中国、ドイツ、インド、日本の5カ国において、各業界のエンジニアとエグゼクティブ、1000名を対象にオンラインで実施しました。重要なイノベーションの課題に企業がどのように取り組んでいるかについての洞察と知見を提供することを目的としています。

### イノベーションの現状

この3年間の調査で初めて、エンジニア(56%)とエグゼクティブ(64%)の大半が、イノベーションを全面的な変革ではなく試行を繰り返しながら、段階的に改善していくプロセスと捉え、両者間に共通認識が見られました。これはエグゼクティブ側の認識が変化したことによるものです。AIは転換期を迎えています。調査対象国の多く(69%)がAI技術をある程度導入しており、22%はすでにAIを広範囲に活用していると回答しています。混沌とした状況下を経て、現在ではその可能性についての理解が共有され、より強力な協働体制への道が開かれています。さらに、優先事項が財務目標と製品イノベーションに移行する中で、AIの拡充は引き続き不可欠となります。こうした動向を踏まえ、TE Connectivity 2025 インダストリアル・テクノロジー・インデックスは、AIの役割を深め、エンジニアのスキルを向上し、持続可能性の課題に取り組み、結束力のある戦略を推進する方法を概説しています。



### 世界のAI導入状況

	中国	ドイツ	インド	日本	米国
ある程度	70%	65%	73%	75%	62%
広範囲	28%	15%	25%	31%	15%

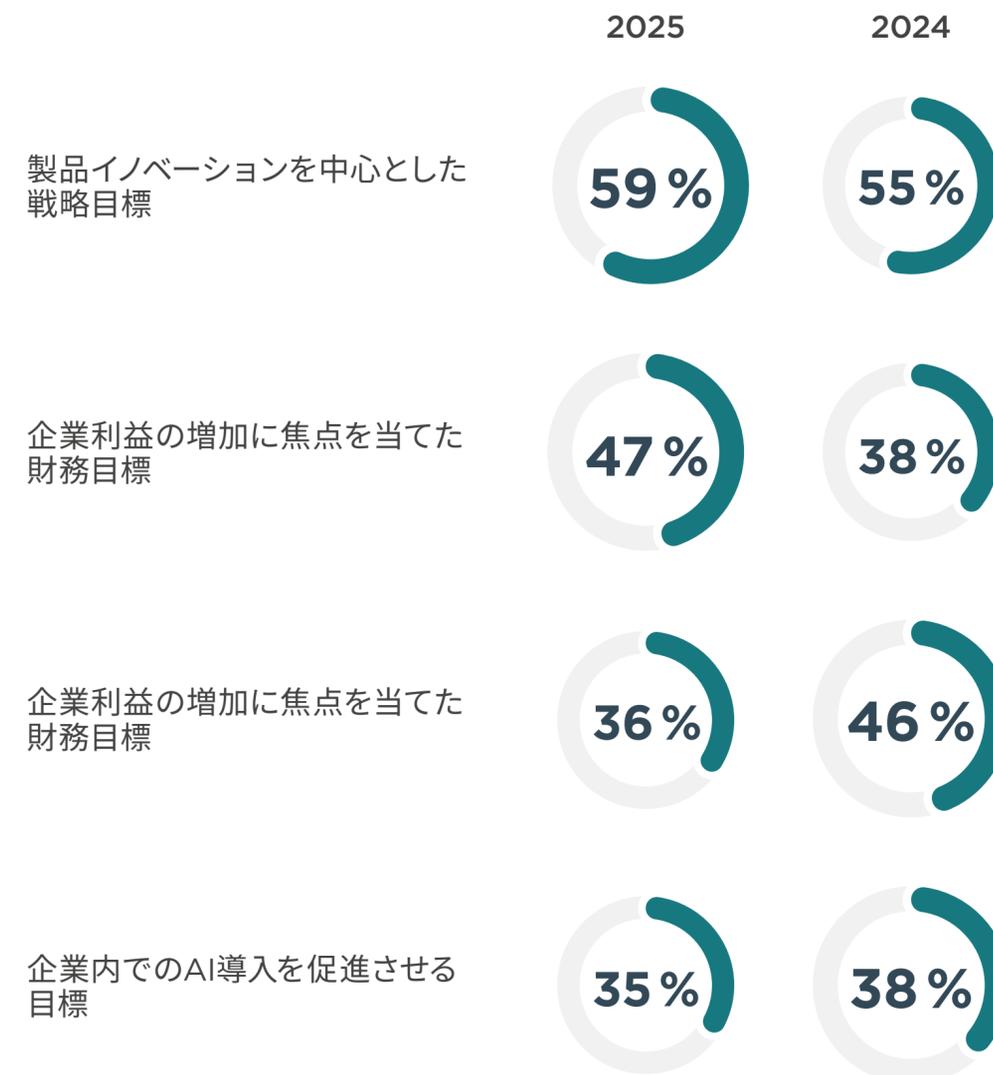


### 世界の2030年目標の優先事項

	中国	ドイツ	インド	日本	米国
持続可能性	18%	29%	12%	18%	11%
DEI	6%	7%	6%	11%	8%
企業の利益	21%	24%	28%	28%	42%
製品イノベーション	43%	27%	35%	33%	26%
AI導入	13%	15%	20%	12%	15%



### 貴社にとって、2030年までに以下の目標はどの程度重要ですか？





TE Connectivity

# 2025 インダストリアル・テクノロジー・インデックス

## 未来への道筋

企業が AI を導入し、その事例が業界に広がっていくことで、製品のイノベーションやコスト削減の飛躍的な進歩につながります。エンジニアとエグゼクティブはイノベーションと協業に対する認識の一致が高まりつつあり、これにより企業が AI 統合、持続可能性、長期的な成功に向けた戦略的目標の達成を加速しています。



グローバルレポート全文を見る

© 2025 TE Connectivity. All rights reserved.  
TE Connectivity, TE, およびTE Connectivity (ロゴ) は、TE Connectivity plcファミリーの企業が所有またはライセンスしている商標です。  
Published 03-2025

## AI導入の最適化

多くの企業がAIを導入していますが、中国と日本の企業は、特に導入をリードし、イノベーションを優先する姿勢を示しています。一方で、グローバルでは、AIは基本的な業務の活用に限定されることが多いものの、より先進的な活用事例もでてきています。特に主要産業でAIトレーニングの実施に対する格差を解消していくことで、さらなる成長とイノベーションの加速が期待されます。



### 貴社はいつからAIを使用していますか？

	中国	ドイツ	インド	日本	米国
3年以上	60%	38%	29%	51%	9%
1年未満	17%	33%	36%	18%	55%



### 業界・分野別の主なAI導入事例

データ、クラウド・コンピューティング、AI	85%	自動データクリーニング
エネルギー	74%	需要予測
ワイヤレス 5G	73%	ネットワークの監視および障害検知
製造業	71%	予知保全システム
自動車・商用輸送	69%	車両の開発・設計



### エンジニアのAIスキルアップの関心度

- 71% AIトレーニングに関心がある
- 64% AISキルアップが仕事を奪うとは考えていない
- 61% AIトレーニングのメリットを認識している

## 持続可能性のイノベーション

企業は長期的な持続可能性目標で足並みを揃えています。経済的制約と市場圧力が短期的な課題を生み出しています。さらに、組織内部の課題も影響し、進展を妨げる要因となっています。

こうした状況に対処するため、80%の企業が業界との協力が不可欠であると回答しています。



### 持続可能性のための産業イノベーションを阻むものは何ですか？

経済的制約	68%
業界の慣習	62%
一貫した業界基準の欠如	63%
消費者需要の不足	64%
短期的な市場圧力	68%
持続可能性対策への投資家の懸念	59%